はじめてのHPCによる深層学習 ~スーパーコンピューターに触れてみる~

自己紹介

太田 満久 (ohtaman)

- CDTO (Chief Data Technology Officer) at BrainPad Inc.
- Google Developers Expert (Machine Learning).
- An organizer of TensorFlow User Group Tokyo.



Supercomputing Division, Information Technology Center, The University of Tokyo ENGLISH サイト内検索 お問い合わせ ● アクセス ● リンク ● サイトマップ

ホーム スパコン

利用案内

サポート

研究会・ イベント 広報・ 刊行物 研究成果 研究部門 について 研究活動 設備紹介

動 Wisteria/ 紹介 BDEC-01

<u>ホーム</u> 〉研究会・イベント 〉 講習会 〉 第159回お試しアカウント付き並列プログラミング講習会

FAQ

研究会・イベント

- ASE研究会
- セミナー
- シンポジウム・ワークショップ等
- イベント報告
- JCAHPC
- 講習会
- 講習会開催予定
- 講習会教育教材
- 「若手・女性利用者推薦」 成果報告会

第159回お試しアカウント付き並列プログラミング講習会 「第4回 GPUミニキャンプ~DL編~」

共催:東京大学情報基盤センター、エヌビディア合同会社、PCクラスタコンソーシアム(実用アプリケーション

部会)

後援:株式会社ディー・エヌ・エー、株式会社ブレインパッド

講習会開催に関するお知らせ

新型コロナウイルス感染症対策のため、東京大学本部指針に基づき、今後講習会実施を中止させていただく可能性がございます。何卒ご了承いただきますようお願い申し上げます。(2020.4.7)

開催趣旨

本ミニキャンプでは、これからGPUを利用される方またはすでに利用されているが効率化を進めたい方、スパコンのGPUを利用したい方、を対象に、情報基盤センター(以降、センター)に設置されたスーパーコンピュータ Wisteria/BDEC-01 を活用した実践を行います。受講料は無料です。

本イベントは、新型コロナウィルス感染症の拡大を受け、オンラインでの開催となります。

https://www.cc.u-tokyo.ac.jp/events/lectures/159/









ABCI ミニキャンプ募集要項

ABCI ミニキャンプでは、CUDA、OpenACC、ディープラーニングなど GPU に関連する様々な課題を持ち込み、メンターからの助 言を受けながら ABCI を活用して課題を解決することを目指します。Slack とオンライン会議システムを使って進めていきます。また ABCIとGPU のスペシャリストがメンターとして参加します。

今回は主にディープラーニングの課題を対象とし、新たに運用開始予定の計算ノード (A) が提供されます。

■日時

- 5月12日(水)10:00-17:00
- 5月14日(金)10:00-17:00
- ■開催方法
- オンラインで開催
- ■対象者・参加資格
- ABCI 利用者 (ABCI アカウント保有者)
- ABCI、オンライン会議システム (Zoom の予定) および Slack への接続が可能な PC とネットワーク環境から参加できる方
- 取り組みたい課題をご自身で用意できる方
- 利用者のプログラム等をメンターが見ることを了承いただける方
- 基本的に 2 日間ご参加いただきますが、途中の一時的な離席は自由
- ■提供計算資源の詳細

1 チームあたり (1 人参加も可能)、1 ノード (8GPU)、最大 10TB のディスクスペース (クラウドストレージ) を期間中占有利用できま す。

GPUミニキャンプを通じて知ったこと

- 1. スパコンは特殊な装置ではない。使い方さえ知っていれば、案外簡単に使える。
- 2. スパコンは学術研究以外にも使える(利用規約や運用方針による)。
- 3. スパコンは思っていたよりも安い。

スパコンを使うメリット

- 1. 大量のマシンによる並列分散処理で、モデルの訓練時間を短縮できる
- 2. クラウドサービスよりも安価に利用できる



GPU使い切るの難しいなぁ。tf.data 使いこなせたらもっといけるのかなぁ。。

e Jun 29 00:23:02 2021			
NVIDIA-SMI 460.32.03 Drive	r Version: 460.32.03	CUDA Version: 11.2	
GPU Name Persistence- Fan Temp Perf Pwr:Usage/Ca			М.
0 A100-SXM4-40GB On N/A 31C P0 75W / 400W	000000000:27:00.0 Off 40306MiB / 40536MiB 		1
1 A100-SXM4-40GB On N/A 34C P0 239W / 400W		95% Defa Disab	1
2 A100-SXM4-40GB On N/A 35C P0 248W / 400W	000000000:51:00.0 Off 40450MiB / 40536MiB	62% Defa Disab	
3 A100-SXM4-40GB On N/A 37C P0 185W / 400W	000000000:57:00.0 Off 40452MiB / 40536MiB	82% Defa Disab	
4 A100-SXM4-40GB On N/A 36C P0 270W / 400W	000000000:9E:00.0 Off 40450MiB / 40536MiB	73% Defa Disab	
5 A100-SXM4-40GB On N/A 34C P0 272W / 400W	000000000:A4:00.0 Off 40450MiB / 40536MiB	66% Defa Disab	
6 A100-SXM4-40GB On N/A 33C P0 255W / 400W	000000000:C7:00.0 Off 40450MiB / 40536MiB	89% Defa Disab	
7 A100-SXM4-40GB On N/A 36C P0 232W / 400V	000000000:CA:00.0 Off 40306MiB / 40536MiB 	 73% Defa Disab	
Processes: GPU GI CI PID T ID ID	ype Process name	GPU Mem Usage	ory

参考: ABCI の料金体系

- ポイント制(1ポイント220円)
- 3.0ポイント/時間 (A100x8, 72コア, 480GBメモリ, 2021年度の料金設定)

ABCIサービス料金表 (2021年度)

2021年度は、1 ABCIポイント当たり220円(税込)です。ただし、初回ポイント取得時のみ、最初の1,000ポイント を19万8千円(税込)で取得できます。

サービ ス	計算資源タイプ	計算資源概要	バッチ及びインタラク ティブジョブ	予約	
計算資源	<計算ノード(V)>				
	rUF	4GPU, 40コア, 360GBメモリ	1.0 ポイント/時間	36 ポイント/日 (1.5 ポイント/時 間相当)	
	rt_G.large	4GPU, 20コア, 240GBメモリ	0.9 ポイント/時間		
	rt_G.small	1GPU, 5コア, 60GB メモリ	0.3 ポイント/時間	NA	
	rt_C.large	20コア, 120GBメモ リ	0.6 ポイント/時間		
	rt_C.small	5コア, 30GBメモリ	0.2 ポイント/時間		
	くメモリインテンシブ ノード>				
	rt_M.large	8コア, 800GBメモ リ	0.4 ポイント/時間	NA	
	rt_M.small	4コア, 400GBメモ リ	0.2 ポイント/時間	NA	
	<計算ノード(A)>				
	rt_AF New	8GPU, 72コア, 480GBメモリ	3.0 ポイント/時間	108 ポイント/日 (4.5 ポイント/時 間相当)	
	rt_AG.small New	1GPU, 9コア, 60GB メモリ	0.5 ポイント/時間	NA	
ストレージ	グループ領域 (共有ディスク)	5 ポイント/TB・月 (ABCIアカウントに割当てられる200GBのホーム領域は無償)			
	ABCIクラウドストレー ジ	0.0001 ポイント/GB・日 (従量制)			

スパコンを使うメリット

- 1. 大量のマシンによる並列分散処理で、モデルの訓練時間を短縮できる
- 2. クラウドサービスよりも安価に利用できる

でも、利用イメージがわかないので始め られない...



GPU使い切るの難しいなぁ。tf.data 使いこなせたらもっといけるのかなぁ。。

Tue Jun 29 00:23:02 2021						
NVIDIA-SMI 460.32.03						
GPU Name Persistence-M Bus-Id Disp.A Fan Temp Perf Pwr:Usage/Cap Memory-Usage 	Volatile Uncorr. ECC GPU-Util Compute M. MIG M.					
0 A100-SXM4-40GB	0 90% Default Disabled					
1 A100-SXM4-40GB	0 95% Default Disabled					
2 A100-SXM4-40GB	0 62% Default Disabled					
3 A100-SXM4-40GB On 00000000:57:00.0 Off N/A 37C P0 185W / 400W 40452MiB / 40536MiB 	0 82% Default Disabled					
4 A100-SXM4-40GB	0 73% Default Disabled					
5 A100-SXM4-40GB	0 66% Default Disabled					
6 A100-SXM4-40GB	0 89% Default Disabled					
7 A100-SXM4-40GB On 00000000:CA:00.0 Off N/A 36C P0 232W / 400W 40306MiB / 40536MiB 	0 73% Default Disabled					
Processes: GPU GI CI PID Type Process name ID ID	GPU Memory Usage					

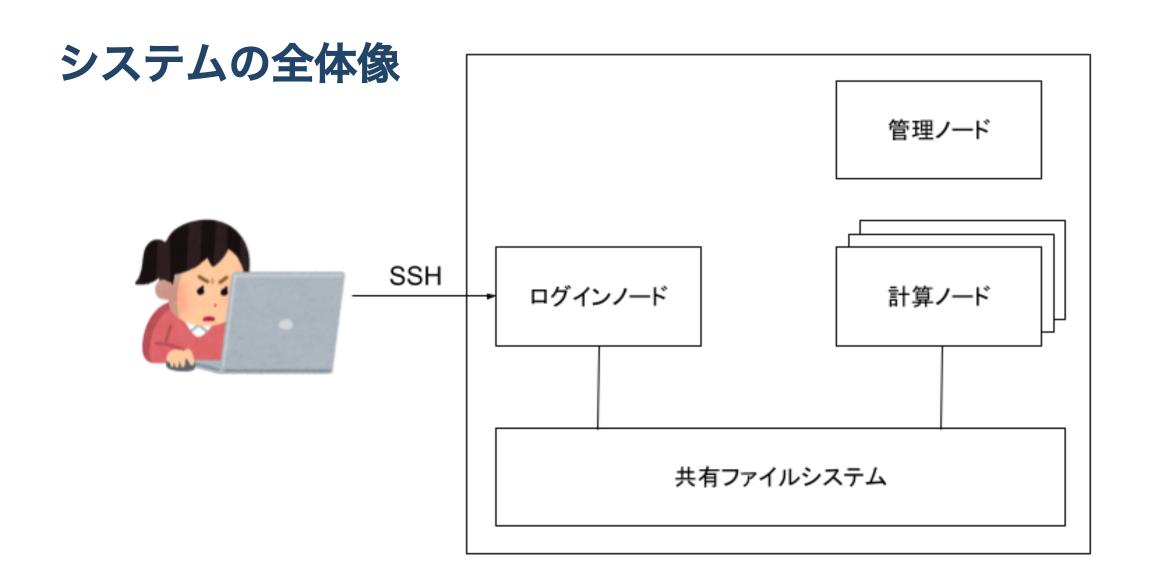
というわけで、主に深層学習のモデル構築を想定したスパコン(HPC) の利用イメージを紹介します

覚えておくと良さそうなこと

- 1. ジョブスケジューラー
- 2. Environment Modules

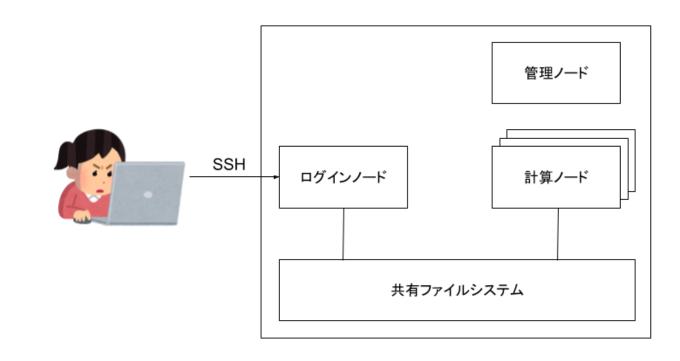
覚えておくと良さそうなこと

- 1. ジョブスケジューラ: 複数人からの依頼に応じてリソースの割り当てを行う
- 2. Environment Modules



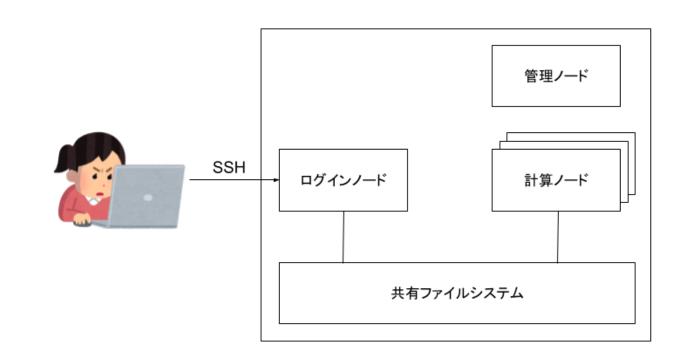
システムの全体像

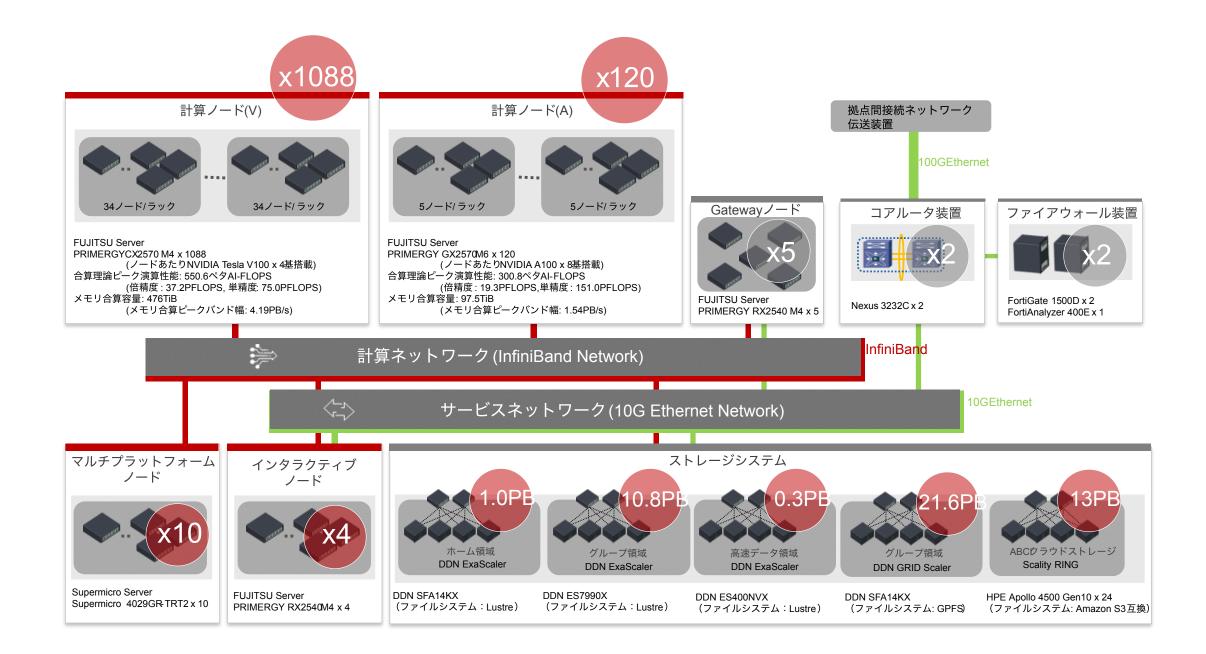
- 1. ログインノードユーザーがログインして各種設定やジョブの投入を行う
- 計算ノード
 ジョブを受け取り、計算を行う
- 3. 管理ノード リソースやキューの管理を行う



ジョブ実行の流れ

- 1. ログインノードにログイン
- 2. 計算に必要なファイルの準備
- 3. (optional) インタラクティブジョブ で動作確認
- 4. バッチジョブを実行
- 5. 結果の確認





ABCIシステムの概要: https://docs.abci.ai/ja/system-overview/

覚えておくと良さそうなこと

- 1. ジョブスケジューラ: 複数人からの依頼に応じてリソースの割り当てを行う
- 2. Environment Modules: 利用するライブラリの管理を行う

Environment Modules の利用例

module コマンドを用いて、使いたいライブラリの使いたいバージョンをロード

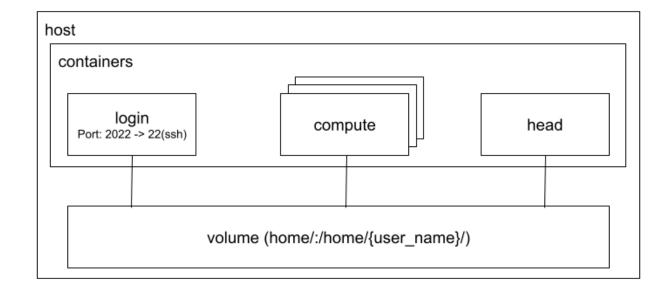
でも、触ってみないと実感が湧かないよ...

ということで、疑似環境を用意しました

https://github.com/ohtaman/docker-compose-hpc

docker-compose-hpc

- docker-compose による構成
- ホストのディレクトリを共有
- OpenPBS の利用
- Environment Modules の利用



クラスタの構築

host\$ docker-compose up -d

ログイン

ログインノード (login) が SSH を待ち受けている

```
host$ docker-compose ps
                                        Command
                                                           State
            Name
                                                                          Ports
docker-compose-hpc compute 1
                              /bin/sh -c /entrypoint.sh
                                                           Up
docker-compose-hpc_compute_2
                               /bin/sh -c /entrypoint.sh
                                                           Up
docker-compose-hpc head 1
                               /bin/sh -c /entrypoint.sh
                                                           Up
docker-compose-hpc login 1
                               /bin/sh -c /entrypoint.sh
                                                           ЦD
                                                                   0.0.0.0:2022->22/tcp
```

ホストのユーザー名ログインノード (login) でログイン

host\$ ssh -i ssh/id_rsa -p 2022 localhost

ジョブの実行

スクリプトの中身を確認

```
$ cat mnist.sh
#!/bin/sh
#PBS -q workq
#PBS -l nodes=1:ppn=1
#PBS -l mem=2G
# qsubを実行したディレクトリに移動
cd "${PBS_0_WORKDIR:-$(pwd)}"
source .venv/bin/activate
python mnist.py
```

ジョブの実行

qsub コマンドでジョブを送信

\$ qsub job.sh

qstat コマンドでジョブの状態を確認。実行中のジョブがない場合は何も表示されない。

<pre>\$ qstat Job id</pre>	Name	User	Time Use S Queue
0.head	job.sh	mitsuhisa.ota	00:00:00 R workq

計算ノードの追加

docker-compose なので、計算ノードを(仮想的に)好きなだけ追加できる

host\$ docker-compose up -d --scale compute=2

MPI による分散処理

MPI を用いると、複数の計算ノードで並列計算できる (以下の例では nodes=2:ppn=2 で2ノードで2プロセスずつ実行するよう指定)

```
$ cat mpi.sh
#!/bin/sh
#PBS -q workq
#PBS -l nodes=2:ppn=2
#PBS -l mem=2G

module load mpi
mpirun hostname
```

MPI による分散処理

ログを見ると、2つの計算ノード(572085e2d423, f565b6b4a09b)それぞれで2プロセスずつ実行されていることがわかる

```
$ qsub mpi.sh
... (ジョブが終了するまで待機する)
$ cat mpi.sh.o1
572085e2d423
572085e2d423
f565b6b4a09b
f565b6b4a09b
```

Optuna による並列分散最適化

機械学習で複数ノードを利用する場合、1つのモデルを複数ノードで訓練することもできるが、パラメーター探索などで大量のモデルを構築したい場合は、各ノードにモデルを割り当て、それぞれ独立に訓練すると、実装がシンプルになる。

Optuna による並列分散最適化

Optuna を使って MPI を用いたパラメーター探索を行う場合は、以下のように適切な storage を指定するだけ

*SQLite ではなく PostgreSQL の方が安心

スパコン利用の注意点

- 1. 個人利用はできないことが多い(利用規約や運営方針による)
- 2. 初期費用(最低のチャージ)が発生することがある
- 3. 一般のクラウドサービスと異なり、サービング環境はないため訓練のみ利用可能
- 4. グランドチャレンジなど優先的なプロジェクトがあるため、常時実行するようなジョブ には向いていない

まとめ

- 1. スパコンは民間利用もできて、安い。使い方も難しくない。
- 2. 体験していただけるように docker-compose で疑似環境を作ってみたので触ってみてね

参考資料

- docker-compose-hpc
 - スライドで紹介した疑似環境
- 一週間でなれる!スパコンプログラマ
 - MPIやスパコンの基本からわかりやすく解説している記事
- ABCI 2.0 User Guide
 - ABCI (AI橋渡しクラウド) のユーザーガイド
- 不老におけるOptunaを利用した分散ハイパーパラメータ最適化 今村秀明(名古屋大学 Optuna講習会)
 - Optuna の紹介スライド